海外トピックス

ニューヨーク州立大学バッファロー校の入学者選抜について

― 一般の学部およびメディカルスクールにおける選抜 ―

研究開発部試験臨床研究部門　伊　藤　　圭

1. はじめに

日本における高等教育機関の社会的な役割をより積極的に果たそうという最近の動きの一つとして，高度な専門的知識および技術を有した実務家の養成が挙げられるであろう。平成16年から法科大学院が導入され，実践力を備えた法律家の育成を目指した教育が開始された。また，経営学修士号（MBA）や技術経営学修士号（MOT）等を取得する，いわゆる専門職大学院のコースを充実させようという大学が増え，社会人入学制度についても様々な措置がとられるようになってきている。

一般に，このような実務的な専門家を養成するコースは，特定の学部学科の出身者に限らず，様々な専攻分野からの学生を広く受け入れるという特徴を持っている。したがって，その入学者選抜方法は，比較的に特定された狭い範囲の専攻分野の出身者を対象としていたような従来型ではうまく機能しない可能性があり，多様な評価観点を採用した新しい方法を検討することが求められている。

アメリカの大学では，ロースクール，メディカルスクール，ビジネススクール等，いわゆるプロフェッショナルスクール（専門職系の大学院，あるいは学部・大学院一体型のコース）においてこのような専門教育がおこなわれており，その入学者選抜の方法は，今後の日本の多様な選抜方法を考える上で参考になると思われる。本稿では，アメリカにおける典型的な公立大学の一例として，ニューヨーク州立大学バッファロー校を取り上げ，基本的な学部への入学者選抜に触れた後，メディカルスクールの入学者選抜の様子について概観したいと思う。

2. 大学の概要

ニューヨーク州立大学バッファロー校は1846年に私立のメディカルカレッジとして設立された。その後，1962年にニューヨーク州立大学（SUNY）（State University of New Yorkの略）のシステムに併合され，現在ではSUNY

の中で最も大きく，中心的な役割を果たしている。バッファロー校（以下ＵＢ（University at Buffaloの略）と略す）は研究志向の大学であり，大学院および専門職系のスクールが充実している。特に医学，工学，コンピュータサイエンスは他の様々な分野を支える基盤になっており，たとえば，医学と化学，コンピュータサイエンスと物理学，環境学と情報学，都市計画と建築学，社会学と福祉学など，複数の学問領域にまたがった，いわゆるインターディシプリナリーな学位取得コースを積極的に設置している。

3. 一般の学部の入学者選抜

3.1　入学申請

学部への入学出願に際しては，高校でのＧＰＡ（学業平均値）とクラスにおける順位の提出が求められる。これらは高校で作成される成績証明書に記載され，高校を通して大学側へ送付される。芸術系の学部や応用科学系の学部など，一部の学部については推薦状が審査される。また，アメリカにおける共通試験に相当するものとして知られているＳＡＴ－ＩやＡＣＴの標準化された得点の提出も求められ，これらは当該のテスト機関から直接大学へ送られる。願書には希望の専攻分野を記載することができるが，一般には学部の２年次に特定の専攻分野を申請するので，ここでは必須事項ではない。

よく知られているように，アメリカでは，通常，９月から始まる秋学期への入学が基本である。願書の受付は前年，すなわち高校の最終学年の初秋から行われる。入学者選抜に関する審査については学内に入学者選抜委員会が設置され，11月から様々な選抜資料を含めた願書の審査を開始する。ＵＢを第一志望とする志願者のために早期合格の制度が設けられている。この場合，11月1日までに願書を提出しなければならない。12月中旬頃に合否判定が出るので，合格者は他大学への願書を取り消し，ＵＢへの入学手続きを行うことになる。

アメリカ以外の高校を卒業した者にはＴＯＥＦＬの受験が課される。また，ＳＡＴ－Ｉの「言語」テスト（Verbal Questions）の低得点者及び英語を第２言語とする者についてもＴＯＥＦＬの受験が奨励されている。

3.2　選抜基準および選抜方法

ＵＢはアメリカ国内では中堅上位付近にランクされ，その入学についてはかなり競争的である。2003年の秋入学者については，85％近くが高校最終学年において上位1/3にランクされる成績であり，79％がＳＡＴ－Ｉの「言語」と「数学」（Mathematical Questions）の合計点が1100以上である。（ＳＡＴ－Ｉの得点は標準化された得点であり，「言語」，「数学」それぞれについて200～800点で表される。）また，ＧＰＡ（履修単位の総合的な成績を０～４の段階で表したもの）については62％が3.0以上の成績を取っている。これらの数値が学業成績についての，おおよその合格基準となろう。

大学レベルの学習を行うための事前準備として，高校において次のような基本的な学科目を履修しておくことが奨励されている：英語（４年間，相当量の文章作成を含む），社会科（４年間），大学就学準備用の自然科学（３年間），外国語（３年間），大学就学準備用の数学（３年間）。これらは必須ではないが，履修に関する入学要件と見ることができるだろう。

ＧＰＡ，クラスにおける順位，ＳＡＴ－Ｉ（またはＡＣＴ）の成績は選抜資料として等しく考慮される。ＳＡＴ－ＩとＡＣＴの両方の成績を提出した場合は得点が高い方の成績が採用される。ＳＡＴ－Ｉは複数回の受験が可能であるが，異なる受験日の成績も含めて，「言語」と「数学」の合計点が最高となるように，それぞれの分野の得点が採用される。

アメリカ国外の高校課程を修了した者に課されるＴＯＥＦＬの得点については，677点満点中少なくとも550点（コンピュータベーストテストの場合は300点満点中213点）が要求される。わずかにこの得点に届かなかった者に対しては，入学後の第１学期に，大学が提供している第２言語用の英語教育プログラムに登録し，修了することを条件に入学が許可されることがある。

この他に，特別な才能や事情を有する者については，それを証明する書類等に基づく審査が行われる。

4. メディカルスクールの入学者選抜

ＵＢのメディカルスクールにあたる医学・生物医学部はＵＢの創立母体となった学部で，150年以上の歴史を持つ。学部名が医学と生物医学に分かれているとおり，医者を養成するだけでなく，医療科学の研究者を養成することも目的としている。例えば，実践と研究の両方を融合させた学位取得を目指す，ＭＤ－ＰｈＤ統合型プログラムを設置するなど，卒業後に医学のどの分野に進んでも適応できる自立・万能型の医学従事者の養成を志向している。大学が運営する付属病院を持っていないが，地域を中心に，病院や各種の医療研究機関と提携して協会団体を組織することにより，幅広い支持基盤を持った医療実践および研究教育環境を確保している。

以下に，医学・生物医学部の入学者選抜の様子をまとめておく。

4.1　入学者選抜方針

ＵＢは州立大学として州からの交付金を受けており，また，医学は医療実践において住民と密接に関わる分野である。したがって，スクールの設置目的やその任務，方針等は，公共のニーズに応えるという色合いが濃く，主に，医療や健康に関する研究拠点としての機能の提供，医者やヘルスケア専門家の訓練とその提供，医療業界への教育資源の提供等が挙げられている。これらは，いわゆるミッション・ステートメントとして，ＵＢのメディカルスクールの在り方を規定している。この方針表明の内容を受けて入学者選抜方針が構成されているが，その内容の多くは入学者の募集人数や選抜資料の説明，応募資格要件等，具体的な内容になっている。

ＵＢのメディカルスクールの第1年次の募集人数は135人である。入学者選抜の審査は学力到達度，適性，能力，医学への動機といった観点から行われる。これらは，メディカルスクールにおける共通試験にあたるアメリカ医科大学入学者選抜テスト（ＭＣＡＴ）(Medical College Admission Testの略）や所属している高等教育機関（カレッジ等）における記録，推薦書，人物評価書および面接等において具体的に表現され，評価される。

通常は学士の学位を持った学生が応募することが望ましい。これは，メディカルスクールに就学するに足る教育が十分になされていることを保証するものであるが，例外的な場合には，より短期間の教育しか受けていないものも考慮される。メディカルスクールに入学する前に，所属の高等教育機関において履修しておくべき科目要件があり，それぞれ，生物学（２セメスター，実験を含む，植物学は１セメスターまで），化学（４セメスター，実験を含む，２セメスターの有機化学を含む），一般物理学（２セメスター），英語（２セメスター）である。これ以外に，必須ではないが，社会科学および人文科学の学習が奨励されている。

医学以外の専門分野のプログラム（ＭＳ，ＰｈＤ等）や歯科医学（ＤＤＳ）を修了した者，および現在これらの入学資格を得ている者は，メディカルスクールの第1年次に出願する資格がある。一方，既に，アメリカおよびカナダ，あるいはその他の外国のメディカルスクールに入学しているものは第1年次への出願資格は無く，編入プログラムへ出願することになる。

志願者はアメリカ国籍あるいは永住権を持っていなければならず，アメリカまたはカナダの高等教育機関において２年間または60単位時間の教育を受けていなければならない。

また，ニューヨーク州出身者にはいくつかの優先的措置が取られる。

4.2　入学者選抜過程

ＵＢのメディカルスクールのアドミッションオフィス（入学者選抜担当部局）は，毎年，135人の募集定員に対して2000通を超える願書を処理している。選抜作業は６月１日に開始され，出願締め切りは11月１日である。選考作業は３月15日までに終了することが全国的に決められており，それまでの間に入学者選抜委員会が願書の審査を行う。

入学者選抜委員会は願書を綿密に審査した後，面接の招集の通知を送付する。面接は選考の最終段階として行われ，９月から翌年２月までの間に，毎年400～500人の志願者が受ける。

合格発表は10月中旬から段階的に行われ，合格者は発表日から２週間以内に大学側へ入学の意志を連絡して100ドルの保証金を提出しなければならない。

4.3　出願手続き

メディカルスクールの第１年次のクラスへの入学志願者は，入学を希望する年の前年の秋までにＭＣＡＴを受験しなければならない。但し，出願日から遡って３年以内に受験したＭＣＡＴの成績のみが考慮される。ＵＢのメディカルスクールは，アメリカ医科大学協会が提供している出願受付処理サービスであるＡＭＣＡＳ（American Medical College Application Serviceの略）を通してのみ出願を受け付けている。通常は11月１日までに出願を完了しなければならないが，ＭＤ－ＰｈＤプログラムへの入学を希望する者については，締め切りが10月１日となっている。

ＡＭＣＡＳを通した出願においては，志願者は成績証明書等の公的な資料は全て直接ＡＭＣＡＳに送ることになる。ＡＭＣＡＳでは送付された成績証明書がきちんと要件を満たしているか等の検査を行った後でメディカルスクールへ転送する。したがって，メディカルスクールが受け取る成績証明書は一定の信頼性を持ったものと考えられ，志願者に対して個別に成績証明書の送付を求めることはしない。

メディカルスクールはＡＭＣＡＳから願書を受け取った後，願書処理費用として65ドルの郵便為替の送付を志願者に求める。この料金の支払いが確認された後に願書の処理作業が行われる。

5.　おわりに

前述したように，ＵＢのメディカルスクールでは，11月１日の出願締め切り以前の10月中旬から合格発表が始まっている。このことから解るように，出願の受付と選考作業が同時並行的に行われている。この点は，全ての出願受付を終了してから選抜作業が行われ

る日本の大学の学部の入学者選抜に多く見られる方法とは大きく異なる。

公平性が非常に強く意識されることと，他者との比較において，より優れた者を選抜するという意識が強い場合には，このような同時並行的な方法を採用することは起こりにくいであろう。

アメリカ，少なくともＵＢの入学者選抜においては，大学における学習や研究に必要な一定程度の能力や適性を有している者であれば，定員が埋まるまで，順次，合格者としていく方法が取られていることは，今後，日本の入学者選抜の在り方を考える上で興味深い。